

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500496		
法人名	社会福祉法人 胆沢やまゆり会		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	岩手県奥州市胆沢区南都田字大持30番地		
自己評価作成日	平成25年8月29日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&ji_gyosyoQd=0372500496-00&PrefQd=03&VersionQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、胆沢高齢者総合福祉施設ぬくもりの家の併設施設として開設12年目を迎えるあたり、事業所の振り返りとして、地域密着型サービス外部評価結果や運営推進会議などから見えた課題解決に向けて、日々取り組んでいます。法人の理念「優しく、温かく、共に生きる」の基、ぬくもりの家「利用者の幸せ、地域の幸せ、私たちの幸せ」の実現に向けて定着が図られ、地元幼稚園、小学校、個人、団体他により、地域交流スペースにおいては展示発表や各種イベントの場やふれあいなどの交流の場となっています。また、保健・医療・福祉の各サービス事業所と連携を密にし、「安全・安心の基本的ケア」に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1.医療・保健・福祉の社会資源が一同に設置(市立国保「まごころ病院」、市が整備した「健康増進プラザ悠悠館」、胆沢高齢者総合福祉施設「ぬくもりの家」)され連携が図られ環境に恵まれている。同一法人が運営する胆沢高齢者総合福祉施設「ぬくもりの家」の画にグループホームが設置されており福祉サービスの多様化に対応できること。
- 2.小学3～6年生を対象にした「高齢者との交流」を体験する「里孫」制度を設け、利用者の福祉のみならず次世代の福祉の担い手を育てていることは画期的な事と思われる。
- 3.各居室には自分の思い出の家具等が置かれ、心地よく過ごせるように配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過せている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人理念・方針」「ぬくもりの家基本理念・方針」「GH介護理念」を月1回全職員で会議の前に唱和して意識統一を図っている。また毎年のキーワード「連携と協働」「健康と感謝」「挑戦と進化」を掲げ、全職員で取り組んでいる。	毎月開催される職員会議で全職員が理念を唱和している。また、毎年キーワード(「連携と協働」、「健康と感謝」、「挑戦と進化」)を掲げ支援の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流では、個人、団体訪問や地域住民、地元住民幼稚園、小学生、里孫等の訪問を受け入れ利用者との交流を行っている。また地元小・中学校の運動会や学習発表会への招待や里孫とのふれあいは継続して実施している。	小学3～6年生を対象とした里孫制度を独自に制定し、利用者との交流が図られている。次世代の福祉の担い手育成にも徐々に成果が表れている。防災訓練は地元協力隊と一緒に総合訓練を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員に認知症について理解を得るため、研修会を開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所に関する事業経過報告、生活状況の報告、自己評価、外部評価、事業計画及び、報告を行い助言を頂きながら運営に活かしている。	利用者、家族代表者を含めた運営推進会議を開催し意見要望を聴取している。地元商店や会議の内容によっては消防署員の参加もあり幅広く意見・要望を受け入れる会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者について問題や課題が生じた時、随時関係担当者や地域包括支援センター及び、奥州市包括支援センターと連携をとっている。	市の担当課とは廊下で連結されているため、いつでも連絡等を取れるような環境にある。ケース処遇会議などで親身になって相談に応じてくれる。また介護度の改善により退居が必要となった利用者や家族の、在宅に向けた話し合いの間にも行政の協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者個々の思いを尊重し、全職員共通認識で安全安心を基本として見配り・気配りをもって身体拘束はしないケアを行っている。	職員禁句集を策定している中においても、身体拘束をしないことについての項目がある。身体拘束についてのマニュアルを策定し、実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修会、出張復命会、職員会議等で聴取や意見交換、職員同士でのロールプレイを行い利用者の立場を考えて日々努めている。また、利用者の健康状態や身体の観察にも注意を払っている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見人制度について学び、利用者個々に検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や変更等があった場合、説明にあたっては、利用者の家族等が理解しやすいように配慮をし、理解を得ている。また、質問等についても随時丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員について、管理者、受付者、職員のポスターを貼り家族へ周知している。 申し出された意見・要望は速やかに解決を図る努力をしている。	第三者委員について、職員の顔写真入りポスターを貼り、家族へ周知し、意見・要望を受け入れている体制を整えている。意見が聞かれた時は、早急に対応し取り組み、結果を公表している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出された意見や提案・要望は放置せず、運営会議等で報告し、出来るだけ迅速に提案等の回答をしている。	毎月の職員会議で、意見・要望が話しやすい環境にあり、そこで出された意見や提案は、速やかに対処している。危険ヶ所の点検や、タン吸引研修受講などが、これまでであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、公正、公平な評価の基実施されている。又、面接を実施し職員の育成につなげるアドバイス、やる気を引き出し、向上に向けて努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修、階層別研修、職員研修会、出張復命会を計画的に行っている。また、外部研修会等には、パート職員も参加している。また、職員だけでなくパート職員も医療ケア研修などへ参加して修了書取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の定例会や奥州ブロックのグループホーム定例会、各種研修など定期的に参加をするように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の居心地の良い生活環境となるよう、受容の態度とコミュニケーションを密にし、職員間の情報を共有しながら、安心と信頼につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態や家族の困っていることを聞いている。本人も一緒に施設内を見学し、グループホームの生活を見てもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括・奥州地域包括支援センターと情報を共有しながら、可能な限り柔軟に対応している。また、総合福祉施設としての特性をいかしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護理念」を実践している。畑作業や家事、季節の習わし等、様々な場面で利用者から教えられることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の写真を添えて、生活の様子を伝えている。行事などには案内文書を送り参加を促し、家族との関係も大切にし、共に支え合える場であるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の訪問時は、地域交流スペースや談話コーナーを利用し、周囲に気兼ねなく過ごしてもらう。またドライブで馴染みの方と会うとか実家に行く機会を持ち、つながりを大切にしている。	同法人の併設地域交流スペースや談話コーナーを利用して親戚の方や友人・知人の来訪者と周囲に気兼ねなく過ごしている。また、ドライブで実家に行ったり馴染みの人に会うなどの機会があり、つながりを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を大切にしながら、職員は情報を共有し、「その時のこと、その瞬間のこと」を大切にし関わりあっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族等に対して、その後の相談方法や担当者について説明を行うほか、サービスの内容や事業所の変更、地域・家族への移行等にあたり相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの個性を尊重し、生活リズムやペースを把握し、利用者の思いを大切にしたりゆとりある関わりの時間を多くもっている。	利用者の生活リズムやペースを把握し利用者の個性を尊重したケアが行われている。ゆったりとした個々のペースにあった食事時間中に、普段あまり言葉の少ない利用者から「こんなふうにしてもらって」と感謝の言葉を話されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時に家族や本人から聴取するが全てを把握できないこともある。よってその後に聴衆が必要な場合は、利用者とのコミュニケーションから知りえた情報など家族に確認したり、関係機関から聞くことがあり、これらは必ず記録をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌への記録のほか、個々の利用者の連絡帳を活用し情報の共有を図り、一人ひとりの生活を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画に沿って、利用者の状態、サービスの実施について各担当職員からどのような推移だったかかを評価・報告をしている。そして職員同士が共有し連携をとりながら確認している。計画書も常に確認出来るような場所に置いている。	居室を担当制として担当者の顔写真が入口に貼られている。1ヶ月月毎に評価を見直している。家族からの要望や利用者の日常生活の中から意見・要望を汲み取っている。必要に応じて看護師が介護計画作成の検討に参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録「気分行動・バイタル・受診・食事量・水分量・排泄・入浴等」を個別に記録し、情報の共有を図っている。また変化があった場合は介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ施設内にある各事業所の特性を活かした支援を行っている。また、廊下でつながっている病院や地域包括支援センター、奥州市健康福祉課との速やかな対応を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアの受け入れや、地域の協力による避難訓練、区内の小学校の里孫とのふれあい等継続して交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じているが、廊下つながりで病院でつながっている。まごころ病院(内科・外科・整形外科・歯科・リハビリ科)への受診となっており、付き添い等の支援も行っている。まごころ病院以外の科にかかる場合は、家族対応しており、その都度家族と情報共有を密に行っている。	廊下でつながる市立国保「まごころ病院」での受診がほとんどであるが、「まごころ病院」以外の診療科への受診は家族対応を原則としている。家族が遠方等の都合で、付き添いが出来ない場合は、「付添支援」を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、利用者の健康管理を行っている。隣接する病院の医師・看護師・薬剤師・歯科衛生士・PT等と気軽に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、頻繁に職員が見舞い、状況の把握に努めている。また、家族と連携をとり主治医と話し合う機会を持ち、早期退院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望で受け入れる方向で検討する。重度化した場合における対応の指針についても説明をして同意を得ている。また、利用者や家族の思いに沿って、悔いのない看取りケアに努める。	隣接する市立国保「まごころ病院」の協力もあり、終末期に向けた取り組みについて前向きに検討している。同一法人の特別養護老人ホームで年2回看取りケアの研修に参加し、スキルアップとサービス向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年一回、全職員対象に心肺蘇生法等について研修を実施している。また必要に応じて緊急時の対応や吸引器の取り扱い等について看護師の指導やロールプレイなどを行い、定期的に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練種別では、通報招集訓練・通報訓練・消火器訓練等の訓練を行っている。また年一回は地元部落の協力隊との訓練を実施している。尚、地元部落とは防災協定を締結しており、有事の際に協力がスムーズに得られるよう体制を整えている。	夜間を想定した避難訓練を毎年7月の第1金曜日の夕方7時に行っている。地元協力隊員(地元住民)27名の参加があり、有事ながら真剣に取り組まれた。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「職員禁句集」の継続と実践、「利用者のプライバシー保護」「職員としての倫理」の研修をし、一人ひとり思いやりのある心配りに努めている。環境の整備にも取り組んでいる。	「職員禁句集」を作成し、全職員に配布している。トイレ誘導や失禁時の対応など利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。プライバシー確保の環境整備にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味活動(花の水やり・裁縫・畑作業等)は利用者がその時の思いで自由に選んで楽しんでいる。また、献立についても希望を聞いている。外食時は、個々の希望で注文している。ほか、日常生活では、自分の出来る範囲内で身の周りの掃除など進んで行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分で落ち着かない時は、職員と一緒に外に出て散歩を行ったり付き添っている。日常生活においては決まった生活パターンはなく、その人らしい生活の支援を行っている。また、地元の顔なじみの理容師が来て、月に一度希望者は理髪を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で普段着ている衣類を、職員と一緒に選んでいる。また、理髪や美容等本人及び家族の要望に応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて、畑で野菜作りをしており、収穫までの一連の流れを利用者で行っている。また、調理の時は一緒に行くなど、利用者の状態に合った行動を共にしている。食事の準備や後片付けも出来るだけ利用者と一緒にするようにしている。	特別食は同一法人経営の特別養護老人ホームで、調理を行っている。利用者が育てた野菜を収穫し、調理をしている。ゆったりと自分のペースで食事している場面が見られた。法人内の連携により、特養の管理栄養士が栄養バランスやカロリーなどの管理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎食時チェックして記録している。その時の状態や個々の一日の水分摂取量を把握し、不足の場合、代替食や刻み食・ソフト食、水分にトロミをつけるなど工夫をしている。また、随時管理栄養師に検食簿を提出し、助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回食後のうがいと、就寝前の口腔ケア・義歯洗浄、消毒の支援をして清潔に努めている。また、毎回食前に嚥下体操を実施し誤嚥の防止に努めている。義歯調整や治療は隣接の、まごころ病院歯科に受診している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを記録し、すぐにチェック出来るように排泄チェック表に記録して把握に努めている。重度者も含め、定時・随時のトイレ誘導で排泄チェックを行っている。	排泄チェック表を作成し、定時・随時のトイレ誘導を行っている。自立支援の観点からも、手を出し過ぎないように見守っている。皮膚を守るため、パットを布製に変えた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳酸菌飲料を提供しており、おやつ時には牛乳も提供するようにしている。食事にも野菜を取り入れた献立で提供するように努めている。また、体操や散歩への働きかけを行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、入浴は午後に行っているが、利用者の希望やその時の気分などで時間に関係なく入っていたできるように努めている。また、利用者の重度化に伴い、電動リフトを導入しており、安全・安心の入浴ができるように日々努めている。	利用者の重度化に伴い「電動リフト」を職員の提案により導入した。利用者が安全・安心して入浴を楽しんでもらうために改善された。電動リフトでは「痛くて嫌だ」、「怖かった」等の意見があり、現在チェアーバス導入を検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は落ち着いて寝られるように、利用者それぞれの日々の生活状況を把握し、日中の過ごし方についても、寄り添う時間を多くもつなど、普通に近い家族的な生活となるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方される薬の内容が把握出来るように個別ファイルに綴り確認している。また、薬は個訪包にし、氏名・服用時間・薬剤名を印字してもらい、間違いのないように行っている。服薬時は職員複数で声に出して確認して服用させるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から得意な仕事や趣味、希望する楽しみ等を普段の生活の会話の中から抽出して記録して、今後活かせるように努めている。昔の行事、遊び、食べ物の作り方など教えてもらい、勉強になる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元の運動会、コンサート、歌謡ショー、季節に合った場所など利用者とお話ししながら外出を行っている。当日、スタッフが不足の場合は総務課やボランティアの応援を得て実施している。	地元の小学校の運動会、元朝参り、どんと祭り、地元の温泉入浴などへ出かけている。スタッフが足りない時はボランティア(民生委員女性部会員など)、総務課職員の応援を得ながら実施している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内の自動販売機・移動販売・公衆電話・施設内の喫茶は自由に利用している。また、利用者によって所持金管理に不安のある方には、事業所で「預り金管理」して、日用雑貨の購入など行っている。管理帳とお金を家族に確認していただいている。入出金時は、職員2人で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する利用者には、付き添うが、会話中は離れるようにしている。郵便のやりとりも職員が確認して受け取り、利用者に手渡して中身を確認していただくよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には、みんなでくつろげるソファを置いて居心地良く過ごせるよう工夫している。畳のスペースも生活空間の場としてテレビやマットなどを敷いて、過ごしやすい環境で生活してただけるように努めている。また、廊下等は、歩行の妨げにならないように整理整頓に努めている。	廊下には歩行の妨げとなるものは置かないように整理・整頓されている。消火器は、廊下にはみ出ないように収納されていた。畳敷きの小上がりや、ソファが多く設置されていて過ごしやすい環境であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーが3カ所あり、のんびり・ゆったりとその時の気分で過ごすことができるように努めている。植物や花に水やり、金魚に餌をあたえるなど、一人、または数人で思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持ち込みは自由、ベット使用も自由としている。本人が慣れて、心地よく過ごせるよう配慮している。	明るく冷暖房完備の居室である。自宅からの持ち込みは自由で、鏡台や使い慣れたタンス、テレビなど、利用者の希望の物が持ち込まれ、本人らしさのある居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー使用、オール電化で、キッチンを利用者も使えるように適度な高さで使っている。危険箇所を洗い出し、その改善に努めている。		